

いちご一会とちぎ国体を終えて

報告者：渡邊 千春 (T-Dream)

2022年度から正式種目となるということで、2020年度から準備を行ってきた。当初の監督が変更になるというバタバタ劇からのスタートとなった。2021年度は選手をしっかりと把握できていない中前期リーグの3試合を行った。この時点ではスタッフが確定していない中チグハグな感じを拭えないままなんとか乗り切ったということが正直なところだ。前期リーグを終えて、いよいよ新スタッフ決定とともに急ピッチでミニ国に向けてギアチェンジを！年度内は県内の選手に目を向け活動回数が少ない中だがしっかりと選考できた。育成年代ということもあり、ピッチ内だけでなくピッチ外にも目を向けて選手選考を行った。私自身選抜の監督は初めてということもあり、分からないことや不安なことは膳亀先生はじめ、石井ユースダイレクターに相談に乗ってもらい、全国制覇の経験がある少年男子の活動を参考にしてスケジュール等計画を立てた。常に重要視したことを下記に挙げる。

【全体】常に先手を取る（予測と準備）

運動量、距離間、コミュニケーション、連動・連携

【攻撃】斜めのパス、幅、四角形、リズム

【守備】1stDFの決定、コンパクト、回収、カバーリング

【ピッチ外】あいさつ、気遣い、時間を守る、コミュニケーション

以上のキーワードを活動の際には常に選手たちに伝え取り組んだ。スタッフは選手一人一人に目を向け、選手同士も所属チーム隔てなくよりよい関係性を作れるよう工夫した。一緒に過ごす時間、仲間を知る時間が増えることでピッチ内での連携も多くなっていった。前期リーグ3試合は、チーム事情等によりその時のベストメンバーといかなかったが、逆に他の選手を観れたメリットもあった。メンバー固定するのではなく本当にいろんな選手をいろんなポジションで試すことができ、ミニ国の18名、本国の15名となった場合のイメージを常に持ちながら活動できた。この時点では、キーワードの実行には程遠く不安でしかない状態であった。やる事が多すぎるのではないかと…

特に個人戦術の理解（守備）の部分はかなりの大きな課題が残った。ずる賢い選手が少ないなという印象をもった。練習試合や紅白戦よりも、練習が必要だということを強く感じた前期リーグであった。

《前期リーグの結果》

- ① VS 岐阜県 4-1○ 相手のビルドアップからきれいに崩されて失点
- ② VS 三重県 9-0○ SBの立ち位置に課題あり、攻撃が単調になりすぎた
- ③ VS 愛知県 3-0○

②と③はアカデミー3名が参加

*アカデミー選手の活動参加に関しては、常に相談をしながら行った。

次に、ミニ国体の結果と反省に触れたいと思う。

まず、ミニ国事前合宿のグラウンドが取れていないということが判明。もちろん宿も決まっていなかった。いろんな方に相談し協力していただきなんとかグラウンドと宿を確保できた。結果と得点経過は以下の通りである

第 77 回国民体育大会東海地区予選会（ミニ国体）

- ① 三重県 5-0 （6分、8分、26分、35+2分、46分）
- ② 愛知県 3-2 （1分、23分、44分、53分、63分） 失点

初日は、久しぶりの活動ということもあり選手間の距離が多少あることは想像できたため、初日は遊び要素を多く取り入れること、選手のコンディションの確認することをメインに活動を行った。楽しく、真剣に行えた。2日目午前中はセットプレーの確認、午後は攻撃の崩し（ゴール前）、四角形と斜めのパス・動きについて確認を行った。今までの活動からできた課題の1つである攻撃の単調さをなくすためとより多くの得点を確実のものにするため選手にイメージを持ってもらうために行った。3日目は天候を考慮し予定より早めのスタートとしシュート練習をメインに行った。攻撃のメニューを多く取り入れたが、ゲーム時には守備側にしっかりとアプローチし今までの積み上げが出来ているかをスタッフ全員で確認しながら行えた。

時間を共有することによりピッチ内外で選手同士のコミュニケーションも増えていき、チームでボールを大事にすること、連動すること、距離間が良くなっていくのが分かった。決定戦は1失点することは予想していたが、何失点してもそれを上回る得点能力があると信じていた。が、0-2のビハインドで前半を終え選手たちにどんな言葉を伝えたいのか考えた。難しいことは伝えず、自分たちの力を信じて戦い続けること、練習で行ってきた（四角形、斜めのパス、急がない）こと、ミスを恐れないことを伝えた。ベンチでは焦りはなくいつも通り穏やかな感じで笑いもあったのが良かった。選手交代起用に関しいろんな意見を頂いたが、選手の心理状況、けがの状態など考慮し後悔のない選択ができた。（結果が出てよかった）

課題としては、開始直後の失点が多いこと、単純なミスからボールを失ってしまうこと、攻撃を急ぎすぎてボールを失ってしまうこと、そして一番はSBに不安があること。攻撃陣は先ほど述べた通り得点能力が高く心配はないが、守備陣に関しては常に不安が付いて回った。練習や練習試合では個別に各コーチからコーチングをしてもらい指導を継続した。練習試合では男子中学生（藤枝東FC、明誠ジュニアユース）と行うことができとてもいい強化になった。もう1、2回行いたかった。

18名から15名に絞る段階ではSBSカップも選考としてぎりぎりまで悩みに悩んで決定に至った。

15名は（アカデミー3名、順心高校6名、橘高校3名、橘中学2名、リベルタージ1名）

最後に、本大会について触れたいと思う。レギュレーションが再交代自由ということで経験がないものとなったが、決勝まで4連戦ということもあり試合の流れをみてしっかりと使っていかなければいけないと感じて入った。

結果と得点経過は、以下の通りである

いちご一会とちぎ国体

1回戦 VS 北海道 8-0○ (9分、16分、33分、62分、64分、65分、67分、69分)

準々決勝 VS 岡山県 2-1○ (35+1分、38分、59分)

準決勝 VS 埼玉県 3-2○ (10分、12分、30分、35+2分、42分)

決勝 VS 東京都 1-2× (25分、37分、42分)

15名決定後1名が怪我で入れ替えとなり、事前合宿初日のみアカデミー3名が参加で栃木まで3名はなでしこリーグ出場後電車移動ということで、15名揃って行える時間は事前合宿初日のみとなった。ここでもU16活動まで時間が空いたこともあり、初日はミニ国事前合宿同様に遊び要素を多く取り入れること、選手のコンディションの確認することをメインに活動を行った。楽しく、真剣に行えた。2日目の午前中は浮き球の処理含め、ロングボールに対してのリスク管理やスペースを埋める動きにアプローチするメニューを行い、短い時間でテンポよく行った。午後はビルドアップの確認をGK含め念入りに行うことが出来た。3日目はセットプレーの確認を沼津西高校男子サッカー部にお願いして練習に参加してもらい行うことが出来た。少しでも選手、スタッフの不安を取り除くことに専念した。

反省点は15名という絞られた中での練習をどうして行うかということ。今回は沼津西高校サッカー部が手伝いに来てくれたが、アカデミーとも連携しながらまた近隣の高校生女子チームにも相談しながら早めに対応を考えるべきだった。

本国体は、開始直後の失点が多かったため、「開始5分は安全に行こう！」ということではなく、「開始5分は強烈に相手ゴールを目指そう！」ということを伝えて全試合臨んだ。

初戦が一番緊張した。選手はのびのびとプレーしてくれて得点も取れたためGKをFPとして起用(2得点)、先のことを考え選手交代も行うことが出来た。初戦は北海道の情報が全くなく相手というより自分たちに目を向け、浮かれずしっかり闘うことに徹底した。岡山戦、埼玉戦はゲームを観ることが出来たためある程度情報がある中での試合となった。選手にどこまで伝えるか？伝えた方がいいのか？迷ったが、大まかな情報だけ伝えた。例えば岡山県は縦に早く、ロングボールを蹴って、セカンドを拾ってくる。埼玉県は遠めからのシュートを狙ってくる。縦に早いというようなことを伝えた。振り返ると、選手もその情報で構えてしまったのか落ち着いてボールを動かすことや、ミスを恐れてしまうプレーが多く見受けられ、攻撃を急いでしまう場面が多かったため、決勝戦は今までやってきたことをやろう！と相手チームの場は伝えず挑んだ。CB同士のパス交換も生まれ、アンカーを含めボールを動かしながら前進することも行えた。初代女王は叶わなかったが、最後まで全員が諦め

ずに闘えた。監督として、スタッフがそれぞれの役割を全力で楽しく行えるようにベンチワークはうまくいっているか、コーチの役割を分担できているか、困っていることはないかなど風通しよく気持ちよく動いてもらえるよう心掛けた。

事前合宿ではイメージを持ってもらうために映像をグループラインに送り選手と共有をし、主務によるミーティングから始まり、監督によるミーティング、トレーナーによる食事やドーピングについてのミーティング、また本国体期間中は宿泊施設で1回だけミーティングを行った（こちらもありラックスできるものでサッカーのことではない）

その他にも、夕方の散歩や、毎朝の散歩（選手による一発芸あり）も恒例となった。

メリハリのあるとにかく楽しく過ごせた時間であった。スタッフ、選手ともに本当に1つになれたと感じられたチームであった。

今後の課題

- ・個人戦術の理解
- ・いろいろな人と共存する力
- ・順心高校へ県外からくる選手の把握
- ・U15/U18トレセン活動のやり方

最後に、活動にあたり本当に多方面の方々にご協力していただき、また初めてということもありご迷惑もおかけした中で、至らない点が多々あったかと思いますが、選手派遣含め練習試合、施設提供等ご協力してくださり感謝申し上げます。

優勝という忘れ物は、来年度取りに行ってくれますので今後ともご協力お願いいたします。とても貴重な経験をさせていただき感謝申し上げます。静岡県女子サッカーを盛り上げるべく今後も頑張ってきたいと思います。ありがとうございました。